

政務活動報告書

令和4年8月15日

[会派名: 喜働]

代表者氏名	川合 滋 印	記録者氏名	足立 淑絵 印
活動者氏名	足立 淑絵		
活動日	令和4年7月25日(月)～令和4年7月25日(月)		
活動先	・三重県名張市鴻之台1-1 (コロナ患者増加中に伴い、zoom 視察となりました。)		
活動目的	・八王子市:スマホを使って楽しくお得に介護予防 キーワードは「持続性」と「発展性」		

★スマホを使って楽しくお得に介護予防(キーワードは「持続性」と「発展性」)★

○八王子市の概要(令和2年9月住基人口)○

- ・人口:577,513人(都内市町村で1位)
- ・面積:186.38km²(都内2位)
- ・高齢化率:27.2%(都平均:23.3%、国平均28.7%)約15万人

○従来型介護予防の限界○

- ・以前は、ボランティア手帳制度があった。
- ・普及啓発の実施、通いの場支援、体操などの講座も行ってきた。
- ・マンパワーの限界、コストがかかりすぎる。
- ・無関心層も一定数いて、効果検証も行いにくかった。
- ・そこに加えて、新型コロナウイルスの蔓延が拍車をかけてしまった。

○今、必要な介護予防事業の形とは○

- ・介護予防の主役は高齢者自身と自覚いただき、セルフマネジメントの支援
- ・健康無関心層も含め、無理なく、楽しく、いつまでも取り組める制度
- ・労力・コストが対象者数に比例しない仕組みが必要
- ・上記の内容を満たすには、ICTの活用が必須

○ICTの活用に至るまで○

- ・高齢者のICTリテラシーが向上してきている。
- ・コストが対象者数に比例せず、スケールメリット(15万人の高齢者)を生かして、必要なコストを稼ぐことが出来ないか検討。
- ・関東経済産業局主催の「ガバメントピッチ」にて全国のヘルスケアベンチャーに自治体の課題とビジョンを提示
- ・ソリューション提案のあった28社の中から(株)ベスプラを選定
- ・決め手の理由は、既存のソフトに+αして地域課題解決のために共同研究してくれる姿勢
- ・令和2年12月に提携を結び、令和3年5月から共同研究開始、実証実験を行う。

○楽しく・お得に介護予防○

- ・歩いて食べて脳トレする無料アプリ「脳にいいアプリ(ベスプラ既存のもの)」に、イベントやボランティア参加で貯まる「地域電子ポイント」を追加し、「てくポ」を開発
- ・運動、栄養、社会参加を楽しくお得に促すポイント制度
- ・貯まったポイントは、市内店舗で直接使用やPaypayに変換できる。

○成果と課題○

- ・「脳にいいアプリ」だけを導入している他市と比較すると、八王子市の平均歩数は約 4182 歩多い。
- ・厚生労働者が提示している歩数による医療費削減額は、1 歩 0.061 円
- ・1歩 0.061 円×100 日間として概算すると、一人あたり約 25,000 円医療費削減できることになる。
- ・登録者数(初年度 352 名の登録)で計算したら、100 日間で約 900 万円医療費削減できることとなる。
- ・介護予防効果の向上に向けて「量」と「質」の向上は必須

○「量」の向上に向けて○

- ・説明会やアプリのインストールにかかるマンパワー削減
- ・スポンサーメリットの拡大や市場サービス連携マージン増加、マーケティング調査協力により原資獲得
- ・タッチポイントやマスプロモーション強化、口コミなどの促進によるユーザー増加
- ・ポイント協力店拡大に向けた取組

○「質」の向上に向けて○

- ・健康効果のフィードバック、ゲーム性の向上、ポイント付与ルールの改善によるユーザーの活動量向上
- ・サービス連携、データ連携、〇〇調査等との連携による、市場サービス連携と健康データ活用
- ・タッチポイント強化、口コミ促進による無関心層の取り込み

○中長期の展望(あるいは願望)○

☆2022 年☆ (利用者数:5000 人)

- ・協力店・スポンサーの拡大
- ・説明会なしでの登録を主流に
- ・他社サービスとの連携を模索

☆2023 年☆ (利用者数:15000 人)

- ・ボランティア等マッチング機能追加
- ・独立採算化に向けた実証
- ・対象年齢拡大の準備

☆2024 年☆ (利用者数:大勢)

- ・独立採算化
- ・他の行政事業との連携(統合含む)
- ・各種市場サービスとの連携するハブに

○介護保険制度の存続の危機は、社会の存続の危機○

- ・高齢者の「困りごと」はますます増加していく。
- ・公的サービスには隙間も存在し、人(介護人材)と金(財源)は既に危機的な状態
- ・高齢者向けビジネスが、公的サービスの隙間を埋め、人と金の危機を回避し、経済の活性化、新たな人とのつながり創出に期待できる。

○持続し発展させるには○

- ・ポピュレーションアプローチには、DX、ねずみ算、またはPFS(成果連動型民間委託契約方式)の要素を入れる。
- ・必要な資源を行政の枠内だけで賄う必要はない。
- ・外部の知恵・人・情報・金などをうまく繋げ、持続可能なビジネスモデル構築を目指す。

○新しいことをICTで素早く行うには○

- ・モタモタする間に技術も課題も変わっていくので、予算編成・執行、委託先選定の縛りを減らす。
- ・「行政は失敗してはならない」という幻想を捨てる。
- ・成功・失敗を測定可能な形で定義して、「まずはやってみる」。
- ・大事なのは、失敗を「負の遺産」にせず、経験を生かし検証する。

○課題解決のためのデータ分析手法○

- ・国保データベース(KDBデータ)を匿名化した上で、解析を委託(データは実証後に破棄)
- ・八王子市は、介護認定がない75歳以上の全員を対象に、基本チェックリストベースの調査を実施。経年での追跡が可能。
- ・ベスプラは、歩数などのデータに加え、ボランティアやイベント参加、認知機能テストなどで、アプリ活動データを収集。
- ・日立製作所は、KDBデータから8大生活習慣病リスクと医療費を予測。八王子市/ベスプラ保有データを暗号化したままセキュアに連携させ、安全に保管する。

○市の負担○

- ・現在、年間140万円位(内訳は、ポイントの原資、手数料、説明会の人件費。システム関係の負担はベスプラ)
- ・今後、ポイント原資の負担は、800万円位を予定している。
- ・民間企業や人材派遣会社との連携をして情報発信
- ・プラットフォームが出来た後、データを市として取っていく。

◎所感◎

本市では、ケンコーマイレージ制度があり、日々の健康行動や健康増進につながる地域づくりの取組やイベント参加などにポイントを付与・還元する仕組みがあります。加えて、市内の国民健康保険者の、医療・介護・検診のビッグデータを医療経済研究機構(東京)、東京大生産技術研究所と共同で統合解析し、効率的な地域包括ケアシステムを構築する取り組みもあります。

八王子市もケンコーマイレージに似たような制度があり、ビッグデータも本市と同じ研究機関に依頼し、統合解析しているとのこと。類似する点が多い中、名張市の今後の方向性として、確実に成果の上がる『スマホを利用した予防医療・介護予防』は必須と感じました。